第4章

安平町は みんなで未来へ駈けるまち

令和5年10月12日、来場者数300万人突破！
北海道じゃらん「道の駅ランキング2023」で10位、
北海道開発局「北海道道の駅ランキング2022（家族で訪れたい道の駅部門）」で3位に選ばれました。

未来に向かって挑戦する

安平町の道の駅は、質の高い農産品などの提供や歴史的資産の展示にとどまらず、
町内外の人々の様々な活動を結び、地域全体の活性化を図るフィールドを目指します。
石炭に関連した産業遺産のネットワークである「炭鉄港」と連携した取り組みや多様なイベント開催を通じ、
地域間交流や情報発信を進めていきます。
道の駅そのものが地域のビジネスチャンスをつくり、町民自らが活躍する場を生み出せる仕組みづくりを進めていきます。
道の駅あびらD51ステーションは未来へ向かう「交流」「発信」「挑戦」の拠点です。

道の駅あびらD51ステーションHP

～未来をつくる仕掛け人たち～ 道の駅あびらD51ステーションにかける想い

安平町の歴史的資産を世界へ

＼あびら鉄道交流推進協会「おおぞら会」矢野さん／

安平町が建設する道の駅が「SL」をテーマにすると知り、石勝線開通時に登場した特急おおぞらのキハも「SLとともに町の発展に寄与した文化として置けないか?」と安平町に相談。職員の方々も賛同してくださり、インターネットを通じた資金調達に挑戦。全国からの関心と応援を得て、なんと実現する方向に歩み出し、設置することができました。

北海道の鉄道史での「追分」の重要性は、「炭鉄港」のストーリーが「日本遺産」に認定されて、ますます高まりました。これまで日本中のSLファンが「追分」を訪れ、多くの旅人が「特急おおぞら」で旅をしました。

ここから発信する鉄道の魅力が、全国へ、世界へ届いて、さらに多くの旅人を惹きつけるようになるとうれしいです。

（この記事は2020年初版発行時のものです。）